

- 八戸市 -

～出会いと学びのアートファーム～ 八戸市美術館の整備

1. はじめに

旧八戸市美術館は、1986年に青森県内初の博物館法に基づく美術館として開館し、約30年間、地域に密着した活動を展開してきた。しかしながら、建物は旧税務署庁舎を全面改装したもので、施設の老朽化や、魅力的で自由度の高い芸術作品の鑑賞空間確保など課題が表面化し、長年多くの市民から新しい美術館の整備が期待されてきた。このような背景から、2016年に新美術館整備に着手し、2021年11月3日、旧館からの建替え・新築により新美術館が開館した。

2. 異例づくめのプロポーザル

当市では、アートが持つ力で市民一人ひとりの感性や創造力を高め、育まれた人々がまちづくりの主役として活躍する「アートのまちづくり」を推進しており、新美術館はその中核拠点として整備することとなった。このため、従来型の美術館に捉われない、これまでにない新しい美術館を市民や行政と一緒に創り、育てる意欲に溢れる設計者との協働に期待し、2016年に公募型プロポーザルを実施した。

プロポーザルには新進気鋭の設計者も参加できるよう、専門家で構成する審査委員会の助言を得て進めるとともに、庁内関係課にも協力を依頼し、参加条件を大幅に緩和した。その結果、第一次審査には全国から138者もの応募が寄せられた。第二次審査は一般公開とし、選ばれた5者が一堂に会する合同ディスカッション形式で行うという、当市としては異例づくめのプロポーザルを実施した。

審査の結果、西澤徹夫建築事務所・タカバンスタジオ設計共同体（東京都）による、「八戸ラーニングセンター」をコンセプトとする設計案を選定した。美術館としての造形的な空間や外観に重きを置く提案が多かった中、最優秀案は、当市で展開されている数々の活動や地域資源、文化を理解し、新美術館で想定される活動を具体的に一連のプログラムでイメージ化したプランとなっており、八戸に建つ美術館としての必然性と、新しいタイプの美術館としての可能性を兼ね備えた提案として高く評価された。



設計者選定プロポーザル第二次審査の様子

3. 出会いと学びのアートファーム

八戸市美術館は、アートを通じた出会いが人を育み、人の成長がまちを創る「出会いと学びのアートファーム」をビジョンに掲げている。これを実現するため、エントランスとしての役割のみならず、人々が自由に集い、学び、活動する場としての役割も担う巨大空間の「ジャイアントルーム」と、より深く学び、さらに違う専門性に偶然に出会える、それぞれに個性がある「個室群」が配置されているのが建物の特徴である。従来の「もの」としての美術品展示が中心だった美術館とは異なり、「ひと」が活動する空間を大きく確保することで、「もの」や「こと」を生み出す新しいかたちの美術館として、新たな文化創造と市全体の活性化を図ることを目指している。

4. おわりに

これまでお力添えをいただいた多くの方々に感謝しつつ、美術館の開館は到達点ではなく出発点であるとの認識に立ち、今後、様々な方々と一緒にアートを介して種を蒔き、育み、100年後の八戸を創る活動を展開していきたいと考えている。



八戸市美術館外観（写真：阿野太一）

八戸市美術館 副館長 たかもり だいすけ 高森 大輔